

日本会議立川支部・DVD 上映と講演会

演題：帰還者が語る樺太の悲劇

九条二項は「国土と国民の生命の安全の放棄」としか思えません

講師：小林恒夫氏（「全国樺太連盟会員、日本会議中野支部副支部長」）

日時：平成 28 年 5 月 15 日(日)

午後 2 時 00 分～4 時 30 分

会場：立川市女性総合センター・アイム 5F、第 3 学習室

立川市曙町 2-3-2 ☎ 042-528-6801

主催：日本会議東京都立川支部

資料代：500 円



講師口上

「集団的自衛権の行使を含む安全保障法案を、『戦争法案』と非難し『平和憲法』を守れと叫ぶ方々がいる。この方々は、戦争がなかったら平和だと思っているようだ。しかし昭和 20 年 8 月 9 日から 9 月 2 日まで、樺太および千島列島で起こった悲劇は、決して『戦争』による悲劇などとは言えないものであった。それはソ連軍による『無防備な国家への侵略』以外の何ものでもなかった。

象徴的な事件として、四つの悲劇を挙げよう。8 月 16 日、恵須取の太平炭鉱病院の看護婦 23 名が集団自決。8 月 20 日、真岡郵便局の女子交換手 9 名が集団自決。8 月 22 日、樺太からの引揚船 3 隻がソ連の攻撃を受けて、1700 人が犠牲に。8 月 22 日、豊原市内への空爆、300 人以上が犠牲に。これらの悲劇は皆、8 月 15 日以降に起こっている。つまり敵国は自国が最も弱った時に攻撃して来るものだ、と断言できる。戦争をしなくても、国家が敵の侵略に抵抗できない位に弱体化した時、間違いなく侵略されることを身を以て体験したと言えるだろう。

当時の貴重な映像も含めて、DVD を上映し、さらに解説を付け加えたいと思う。

また日本会議立川支部は、毎月第 2 水曜日の午後 2 時から、柴崎学習館をお借りして読書会を開催しています。現在は、「新アメリカ論」桜井よしこ＋国家基本問題研究所、産経新聞出版刊を読み続けています。4 月 13 日には、第 6 章「アメリカを舞台にした救う会と北朝鮮との戦い」西岡力著を読み、議論に花を咲かせます。どなたでも参加できます。参加ご希望の方は、下記役員にお問い合わせ下さい。

照会先	支部長	事務局長	幹事	幹事	幹事
	小町幹夫	小林秀英	濱田實	森住光雄	岡寄幸平
	042-523-5588	042-381-6911	042-502-9568	042-527-5458	042-525-9856

